

第4回豊岡市観光地経営のあり方検討委員会 会議録

日 時 2024年3月27日(水)10時30分～12時

場 所 豊岡市役所 庁議室

出席者 委 員：池田委員長、山田委員(オンライン)、高宮委員、中嶋委員、
日生下委員、鷹野委員、北村委員(オンライン)、川原委員、
得田委員、島津委員、西上委員

事務局：観光文化部 米田部長、

観光政策課 宮垣課長、石本課長補佐、谷垣、蒲、佐々木

欠席者 山本委員

1 開 会(司会：宮垣課長)

春の訪れを感じる時期になった。コウノトリ孵化の情報を次々と耳にするだろう。チューリップまつりも予定されている。景観を楽しむために市外からお越しになるだろう。

2 あいさつ

〈委員長〉

次年度以降の大切な項目も議論頂く場としたい。忌憚のない意見をお願いしたい。

3 議 事

大交流ビジョンの実現に向けた観光地経営アクションプラン(案)について

〈委員長〉

目標毎に確認していきたい。意見や考えをいただければと思う。挙手制としたい。

目標1について

〈委員〉

目標1Ⅱの地域マネジメント強化に関して、現在、TTIでは、データを駆使してマネジメントを行っている。しかし、今以上にブラッシュアップが必要と思う。Iについて、このスケジュールだと25年度からと記載しているが24年度検討を行い、25年度から実行に移るという考えでいいか。

〈事務局〉

仰るとおりです。

〈委員〉

24年度に各観光協会の地域観光戦略を策定するということだが、TTIはⅡを現在もやっている。さほど変化はない様に思える。

〈事務局〉

地域毎の計画に基づき進行管理も含めてDMOが協力・支援できることがある。現在も行っているが、精度をより高めていくイメージです。

〈委員〉

現在も行っているが、互いが共有できていない部分があるので融合させないといけない。現在も各観光協会は戦略、事業計画を立てている。TTIもマーケティング、プログラム作成をしている。Ⅰ、Ⅱについて現在と記載内容が変わっていない。言い回しが変わっただけ。

お互いの理解が得られていないので、融合するためにDMOが各観光協会に机を設けて現場感を理解してもらうことが大切と、これまで議論されていたのではないかと、あまり踏み込めていないように思う。

TTIが高付加価値プログラムを造成しているが各観光協会も着地型プログラムを造成している。その様なムダをなくすことで観光地マネジメント強化に繋がるのではないかと。

〈委員長〉

補足をすると、TTIと観光協会と一緒に地域観光戦略を策定する。DMOはこれまでの支援者から当事者になるという意味合いで表現した。

〈事務局〉

これまでの委員会でTTIが地域の現場を知る機会が必要、という意見をいただいた。この表は地域との目標をすり合わせる必要があるという意味合いで記載した。DMOが地域とコミュニケーションをとる方法を検討していければ。具体的にどの様に行うかは、次年度以降にワーキンググループを設置して議論を深めていければと思う。

〈事務局〉

地域観光の目標を策定し、共有して深める場を設け目線合わせをする。そうすることで関係性を深めることができるのではないかと考えた。行政においても、観光政策課だけでなく地域振興局を含めてお互いの目線合わせをしたいという意味でこの様な表現をしている。

〈委員〉

城崎以外でも振興局の職員が観光協会の理事に就いているのか。

〈事務局〉

理事になっていないと思う。現時点では各地域の目標等に差があるので、豊岡市全域で取り組む仕組みとして機能させる必要がある。

〈委員長〉

各地域単独でなく、全域の目標を共有することでより責任感を持たせるということが重要であると感じている。

〈委員〉

観光協会によっては、理事の中に建築業などの観光に携わっていない人も入っている。策定委員会をするとその様な方の負担になる気がする。意図はわかるが会議が増え、負担が増えるだけになるのでは。

1年間検討する期間があるとしても、その間に会議が増えるだけではないか。新しいものを策定するのではなく、既存のものを変えてお互いの理解を得られるものをそれぞれの観光協会ですべて1年かけて策定し、その後に地域観光戦略を作りあげたらいいのではないか。

〈委員〉

観光協会とDMOの目標、事業計画がすりあっていないことが課題である。重く捉えずに、それぞれの観光協会が年度目標や事業を計画する際にDMOが寄り添って一緒に検討する形態をとればいいのか。DMOもその意見を取り入れたうえで事業計画を立てることができる。

それと同時に設定した目標を達成すると、地域の観光にどのような影響を与えるかを共有することが大切である。

まずは、TTIが協力をしながら各地域の地域戦略を立てることである。それを行うことでTTIの目標も立てやすい。いつ立派な戦略がまとまるかはわからないが、まず始めてみるのはいいのではないか。それから戦略策定後にフィードバックを行い、TTI、観光協会、各ステークホルダーに理解してもらうことが大切である。

〈委員〉

確かに仰る通りと感じた。そうしないと各地域がバラバラに進んでいくことになる。TTIが、各観光協会に出向き協力することで連携に繋がる。TTIが観光協会ですぐデスクを置くことは人員の課題や効率性から難しいので、まずは、場面にあわせて地域に入っていけるような形態で行えればいいのかと思う。

〈委員〉

戦略策定において会議が増えることだけは避ける様に文言を修正いただければ。

〈委員〉

まずは地域の会議に TTI が同席することから始まるのではないだろうか。各地域の現状を知ることから始まる。知恵や情報も得ることが出来るだろう。

〈委員〉

各観光協会によってできることや考え方などが違う。TTI が寄り添って行えばいいのではないか。しかし、TTI の人材にも限りがあるので一緒につくりあげていくことでよいのではないか。23 年度から独立に向けてスタートした段階であるので、現状もご理解いただければと思う。

〈委員長〉

いただいた意見は、議事録に残し次年度の検討に活かせればと思う。

〈オブザーバー〉

観光協会では、インバウンドについてなど、わからないことが多い。現在、DMO と観光協会で行っている周遊促進会議もいい取組みと思う。DMO が入ると会議が実のあるものとなる。

〈委員〉

記載していることは自体は間違っていない。人材によってできるできないが変わってくる。あとお金の面も課題である。投入できるお金と人材を踏まえた議論が基本であるが、今はやるべきことで書いている。固定した条件で議論しないと議論が拡散してしまう。

TTI と観光協会の連携強化もしくは TTI と観光協会で役割分担をしながら違うミッションを担う 2 パターンでアクションプランが変わってくる。お金についても、市、国等の補助金、その他の財源なども考えられる。無限に補助金が取れるわけではないが 3 パターンがある。

お金 3 パターン、体制 2 パターンの想定をして事業を考えないと終着点が見つからないのではないか。

〈委員長〉

これらの意見を踏まえて次年度検討していければと思う。では目標 2 についていかがか。

〈委員〉

スケジュールについて、24 年度に実施予定になっていないものがあるが、行わないと忘れられるのではないか。検討は 24 年度から行うべきではないか。

〈事務局〉

地域の観光戦略では、人材不足の問題も明らかになると思う。人の確保には予算が伴う。予算化できるのは最短で25年度からになる。24年度に行わないということではなく検討は進めていく。来年度何もしないという意図ではない。

〈事務局〉

I（事業承継、労働力の確保）について市内の他部署がすでに行っており、その部署との連携が必要である。連携を行うことで、目標3 I（観光の枠を超えたタスクフォースの設置）においても市内の意識を変えることができると考えており、流れを切らさない様に考えている。

また、できる検討については早めに検討したいと考えている。その部分では、委員ご指摘の件への対応になると考えている。

〈委員〉

IVの外国人労働者育成についても、26年度まで支援してもらえないと感じてしまった。すぐに支援してほしい。語学研修についても、外国人はそれぞれに日本語のレベルが違い、語学力が低くても就労が可能で、ビザ取得も目指せる語学研修が充実するとありがたい。早くしてほしい。海外の情勢も日々変化している。ベトナムも今までは日本で働きたい人が多かったが、今は競争がある。急がないといけないのではないか。

特定技能のビザが変わりつつある。城崎の場合、観光センター内のまち会社が支援機関となっていて外国人労働者の雇い入れが可能になっているが、他の地域にはないと思う。TTIが支援機関の1つになることは考えられないか。

〈事務局〉

アクションプランの表現について悩んだ。支援を行うという意味では、少し期間が必要と感じている。ただ、検討は24年度から行うものと考えている。色んな方法があると思うので、実行も早く考えていきたい。場合によっては、25年度まで早めて行うことも可能。

語学学校の開校については、予算面の課題もあり、始期が遅れる可能性があるが、より有効な手段があれば早めに行いたいと思う。

〈委員〉

市広報で予算200千円の語学教室開催の記事を見たが、どのようなものか。

〈事務局〉

確認する。「外国人転入者対象の初級日本語教室」の事であり、本市の地域づくり課が実施予定。

〈委員長〉

来年度検討を行い、早急に行うもの、時間を要するものに区分し、早急に行えるものは実行していくということではいかか。

〈委員〉

まだ実施の可否や予算を伴うのかも不明なので、それも含めて検討するという理解でいいか。

〈委員〉

今は行政が主体となり行うことでいいか。

〈事務局〉

予算が伴うことが予想されるので行政が中心的な役割を担うべきものとする。仕組みができれば、行政が必ずしも行う必要もないと思う。

〈委員〉

予算化も含めて検討できれば。

〈委員〉

法務省の外国人労働者支援機関は資格さえあれば業務を行うことができ、とても利益率が高い。

〈委員〉

路線バスの運転手が足りないので減便になっている。タクシーの運転手も不足している。夢但馬タクシーも4月から値上げ。3日前までに予約することになる。当日では予約できない状態。観光関連人材の課題を1つ付け加えることができないか。検討する必要があるのでは。

〈事務局〉

目標3において観光関連人材の課題も入れている。公共交通担当課と協議する必要がある。

〈委員長〉

観光関連人材の確保に関する課題として文言を残す必要があるかもしれない。

〈委員〉

簡単には解消できない問題である。実際はライドシェアぐらいしか対応策はないと思う。他の観光地では、その様な形態が進んでいる。

〈委員長〉

目標2について、他ありますか。

〈委員〉

専門職大学について24年度は取組みを実施する予定になっていない。2024年度に1期生が卒業する前に取り組まないと1期生が市外に出てしまうと2期生も続いて出てしまう。観光を学びたいと思う学生もいるはずだ。行政が積極的に関わってほしい。

確かにタクシーも当日予約できないのは不便である。タクシーは割り勘もできる。30分以内で来てくれるならいいが、タクシーを使用できないのは不便だ。

〈委員長〉

交通の部分も検討いただければ。

〈事務局〉

(市広報の記事について) 多文化共生事業として転入者に対して無料で初級の日本語教室の開設を行う予算である。すでに始まっている取組みもあるので、24年度から実施できるものもある。しかし、この事業は転入者の生活支援、本委員会は労働者の面を課題としている。表のとおりに行うことができない場合もあるし、当然前倒しも考えられる。

〈委員長〉

目標3についてご意見ありますか。

〈各委員〉

特になし

〈委員長〉

目標4についてご意見ありますか。

〈委員〉

II(ii)について2年で結論を出そうということか。必要があれば、この様なスケジュールで検討を行うということか。違和感がある。25年度中に宿泊税の導入に関して結論を出す予定ならば反対する。

〈事務局〉

事業を棚卸しするなかで、短期的な取組み、長期的に継続する必要がある事業が明らかになると思われる。この2年間で必要な事業を洗い出すという意味で記載した。

安定的な財源が必要になることも想定して準備が必要と考えて記載している。

〈事務局〉

「検討する」というアクションの意味で記載している。世の中の情勢、海外の動きも変わっており共有しながら検討していく必要があると感じている。

〈委員〉

その検討は済んだと思っている。大きなお金が必要になるといえば、例えば城崎において桃島バイパス開通の際、フリンジパーキングの設置を希望している。しかしバイパスの開通はもっと先の話なので、2年間で検討することではない。その他、いろいろな検討事項がある。前回の委員会でも伝えたはず。桃島バイパスの開通に伴う周辺環境の整備に必要となる予算を、現状の予算で賄えるならば財源を集める必要はない。

バイパス施工時の物価も違うだろう。他の地域の考えもあるかもしれないが。

〈委員〉

現時点でも、とりまく社会的な課題が多い。人材、観光に今後どれだけ予算がつき込めるかわからない。少なくとも議論は進めたい。経済同友会から全国的な宿泊税の導入に向けた動きもあり自治体として検討していきたい。

〈委員〉

行政は検討を行う意向かもしれないが宿泊事業者は行いたくない。もう結論は出ている。要望書も1度提出している。市民にも議論している姿を見せたくない。そのような議論をすると観光地のイメージを下げることにつながる。

〈事務局〉

検討することは問題ないが期間が短いという意見か。

〈委員〉

検討することは構わないが、この表だと2年間で結論を出すと読み取れる。少なくとも、もっと長く検討すべきだ。

〈委員長〉

期間は定める必要がないということで修正できないか。

〈事務局〉

わかりました。

〈委員長〉
他にありますか。

〈各委員〉
特になし。

〈委員長〉
以上で議事は終わった。他にないですか。なければ事務局に戻したい。

〈事務局〉
熱心にご意見いただきありがとうございました。勉強不足と感じたところもあった。
委員の任期は今月末までだが、来月以降の早い時期に、本委員会の報告書を確認していただく場を設けたい。引き続き、ご協力をお願いしたい。

4 その他

アクションプランの今後の進め方について

〈事務局〉
来年度はそれぞれの目標毎にワーキンググループを開催して議論を深めたいと考えている。委員の皆さまには、改めて相談させていただくこともあると思うが、引き続きご協力をお願いしたい。

〈委員〉
1 事業者として考えると、事業者も市民向けの事業で貢献できるのではないか。項目としてあげてもらえれば。

〈事務局〉
事業者からそのような声をいただけるとは大変心強い。本件について事業者の皆さまにもご理解いただけるように注力していきたい。

5 閉 会 〈米田部長〉

協力いただきありがとうございました。豊岡市として会議のあり方を見直す動きがでている。既存の戦略とのすり合わせに関する意見もいただいた。改めて報告書をご確認いただきたい。アクションプランはあくまで骨子として示している。実施に向けて検討したいと思うので協力をお願いしたい。